

時代	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代
年代	紀元前20,000年 紀元前10,000年 紀元前3,000年		紀元前1000年 紀元前200年	400年 500年	600年 698年
佐名伝付近の出来事	吉野川の川岸台地や段丘上に住居を営む 飲料水や魚貝類の採取に便利な土地が選ばれた	吉野川・紀ノ川水系の緑泥片岩・二上山の安山岩を使って各種の道具を作る 手槍・投槍を使って、動物を捕獲 石鏃の弓矢を使って、遠くにいる獣や鳥を射って捕獲 石錘をつけた網による漁撈が盛ん 石匙で動物の皮を剥いたり、肉や魚を切って調理 縄文土器を使って、食生活を営む 吉野川・紀ノ川上下流域と往来 奈良盆地や、高見山地域とも交流 <b>佐名伝付近でも段丘上に住居を営む(佐名伝遺跡)</b>	河岸段丘上の竪穴住居で暮らす 稲の穂摘具が少なく、畑作や狩猟の生活が中心 竪穴住居内で石器を作る	高地性集落を形成 吉野川沿いに横穴式石室墳が築かれる	文武天皇が宇智郡に行幸 「隋書倭国伝」に阿田の鵜養漁法を記す
日本の出来事	日本列島の形成 石槍の改良、弓矢の使用 縄文土器の使用 炉を持つ竪穴住居 貝塚が形成される	鹿の角による土 土偶を使った祭祀 大型竪穴住居 北部九州から稲作が伝わる 弥生式土器の発達	五十七年 倭の奴国、後漢に使者を出す	前方後円墳の出現 須恵器の生産が広がる 古墳に横穴式石室の採用 五二七年 九州で筑紫国造磐井の乱 五八八年 飛鳥寺の造営 五九三年 聖徳太子、摂政となる	六〇四年 憲法十七条の制定 六〇七年 法隆寺が建立 六三〇年 遣唐使の始め 六四五年 大化の改新 六七年 壬申の乱、飛鳥京に遷都 六九四年 藤原京に遷都 七〇一年(大宝元) 大宝律令の制定

時代	年代	佐名伝付近の出来事	日本の出来事
奈良	七一九年(養老三) 七二〇年(養老四) 七二四年(天平六)	藤原武智麻呂が栄山寺を建立したと伝える 『日本書紀』神武紀に阿陀鵜飼養部を記す 大和国宇智郡の成立	七二〇年(和銅三)平城京に遷都 七二二年(和銅五)『古事記』を撰進
時	七六三年(天平宝字七) 七七三年(宝龜四) 七七五年(宝龜六) 七七八年(宝龜九)	藤原仲麻呂が栄山寺八角堂を建立したと伝える 井上内親王・他戸親王が政争に破れ、宇智郡に幽閉される 井上内親王・他戸親王が去 このころ靈安寺、御霊神社が建立される このころから御霊信仰が広まる	七五五年(天平勝宝四)東大寺大仏が開眼 七二〇年(養老四)『日本書紀』を撰進
平安	一〇七〇年(延久二) 一一五六年(保元一)	栄山寺、興福寺の末寺となる 大和源氏宇野親治、保元の乱で活躍(興福寺大乗院被官)	七八四年(延暦三)長岡京に遷都 七九四年(延暦一三)平安京に遷都 一〇一六年(長和五)藤原道長摂政となる
鎌倉	一一三八年(嘉禎四) 一一八九年(正応二)	このころ宇智郡一円に御霊神社が分祀される 佐名伝御霊神社もこのころにできる 佐那手称林寺の鐘が鑄造される(山口県長門市清月寺所有) 『大和国宇智郡佐那手 称林寺 正応二年己丑十一月晦日別当阿闍梨兼弁』と記す	一一九九年(建久三)源頼朝鎌倉幕府を開く
時	このころ(年号不詳)	興福寺大乗院領荘園の宇野庄の附属地として、「佐那手」を記す(『三箇院家抄』)	一一七四年(文永二)文永の役 一一八二年(弘安四)弘安の役
倉	一一三六年(建武三)	後醍醐天皇が吉野にのがれ、これより南北両朝に分かれる	一一三三年(元弘三)鎌倉幕府が滅ぶ 一一三四年(建武一)建武の中興 一一三八年(延元三)足利尊氏室町幕府を開く
代	一一三六年(正平二) 一四一八年(正長一) 一四三六年(永享八)	栄山寺文書の信阿弥陀仏領売文に「サナテ」と記す 宇智で土一揆が起こる 大和国中一揆が所々に起こる	一三九九年(明德三)南北朝の統一がなる 一四〇一年(応永八)足利義満、明に通交
室	一四四四年(享徳三) 一四六四年(寛正五) 一五〇〇年(明応九)	一石五輪塔に銘文あり(旧佛眼寺墓地より百合尾墓地へ移転) 『大乗院寺社雑事記』に「佐那手」と記す(宇野氏と見氏が田地をめくり相論) 一石五輪塔に銘文あり(百合尾墓地)	一四六七年(応仁一)〜七七七年(文明九)応仁・文明の大乱 一四八五年(文明一七)山城国一揆 一五四三年(天文二二)ポルトガル人、鉄砲を伝える
町	一四四四年(享徳三) 一四六四年(寛正五) 一五〇〇年(明応九)	佛眼寺が開山される(二元誉代)	一五四九年(天文一八)ザビエル、キリスト教を伝える
時	一五六九年(永禄二二)	高野山の僧徒が宇智郡に押し入る	一五七三年(天正一)室町幕府が滅ぶ
代	一五七三年(元龜四)		

時代	年代	佐名伝付近の出来事	日本の出来事
安土・桃山時代	<p>一五八一年(天正一〇) 本能寺の変</p> <p>一五八八年(天正一六) 豊臣秀吉の統一</p> <p>一五九二年(文禄二) 文禄の役</p> <p>一五九七年(慶長二) 慶長の役</p> <p>一六〇〇年(慶長五) 関ヶ原の戦い</p> <p>一六〇三年(慶長八) 徳川家康、江戸幕府を開く</p> <p>一六一五年(元和二) 大阪の陣</p> <p>一六三五年(寛永二二) 参勤交代制の確立</p> <p>一六三七年(寛永二四) 島原の乱</p> <p>一六五一年(慶安四) 由比正雪の乱</p>	<p>このころ豊臣秀吉の兵農分離政策によって宇智郡の武士が掃き除かれる</p> <p><b>浄土院の一石五輪塔に銘文あり</b></p> <p>郡山藩小堀新介、宇智郡の検地を行う</p> <p>水野石見守長勝、南阿田村一八〇石を支配</p> <p>松倉豊後守重政、二見城に二万石余の大名として入る(佐名伝四二六・二二石)</p> <p>松倉豊後守重政、肥前日野江城へ国替え(佐名伝は天領になる)</p> <p>郡山藩主松平下総守忠明の領地となる(佐名伝五三二・六五石)</p> <p>” 本多内記政勝の領地となる(佐名伝四二六・二二石)</p> <p>三年続きの飢饉で多数の死者が出る</p> <p>佐名伝は幕府の天領となる(佐名伝五三二・六五石)</p> <p>中村家文書(新任宮前寺の一向宗浄迎院道場の再興を願い出る文書)</p> <p>佛眼寺の旧本堂が建立される</p> <p>浄迎寺の本尊木仏下付書に記録あり(宮前寺下宇知郡左名手村惣道場浄迎寺)</p> <p>元禄郷帳で佐名伝五三二・六五〇石の記録あり</p> <p>大地震</p> <p>大日堂縁起札に「大日堂再建立願主称号山浄迎院」の記録あり</p> <p>小山家文書(年貢割付免除の文書)</p> <p>佐名伝村が東西に分離される(藤堂和泉領)</p> <p>おかげ参りが紀州方面より波及</p> <p>五條代官所が設置される。代官河尻甚五郎が支配、五万三千石</p> <p>享和郷帳で東佐名伝四〇五・一四石、西佐名伝一七七・五一四石の記録あり</p> <p>東佐名伝・西佐名伝の申し合わせ文書(水利問題の使用取締り文書)</p> <p>御霊神社石灯籠に記録あり</p> <p>太神宮灯ろう(灯ともし)ができる</p> <p>天保郷帳で佐名伝五三二・六五四石の記録あり</p> <p>御霊神社石灯籠に記録あり</p> <p>西村家文書(水利権問題の文書)</p> <p>コレラが流行</p> <p>天誅組の変</p> <p>五條代官鈴木源内が天誅組浪士により殺害される</p> <p>高取城主植村駿河守が支配</p> <p>代官中村勘兵衛が支配</p> <p>奈良県を設置、春日仲襄が初代県知事</p> <p>(東佐名伝四〇五・一四石、西佐名伝二二七・五一四石の記録あり)</p> <p>奈良府と改め、府知事左近衛権少将園地公静が来任</p> <p>奈良県となる(天領旗本知行地・寺社領のみ)</p> <p>五條県が発足、宇智・吉野両郡と河内の石川・錦部両郡</p> <p>奈良県となる(奈良全域)</p> <p>大区・小区制を実施</p> <p>堺県に合併(堺県第五大区一小区となる)</p> <p>堺県が五條郡役所を設置</p> <p>宇智、吉野郡役所を設置</p> <p>堺県大阪府に合併</p> <p>奈良県の独立</p>	<p>一七八一年(天正一〇) 赤穂義士討ち入り</p> <p>一七二六年(享保一) 享保の改革</p> <p>一七〇二年(元禄二五) 赤穂義士討ち入り</p> <p>一七四四年(延享一) 享保の改革</p> <p>一七五二年(宝暦一) 天明の大飢饉</p> <p>一七八一年(天明二) 天明の大飢饉</p> <p>一七八七年(天明七) 寛政の改革開始</p> <p>一八〇〇年(寛政二二) 伊能忠敬、蝦夷地を測量</p> <p>一七九五年(寛政七) 天保の大飢饉</p> <p>一八三三年(天保四) 天保の大飢饉</p> <p>一八三七年(天保八) 大塩平八郎の乱</p> <p>一八四二年(天保二二) 天保の改革</p> <p>一八五三年(嘉永六) ペリー浦賀に来航</p> <p>一八五四年(安政一) 日米和親条約</p> <p>一八六〇年(万延一) 桜田門外の変</p> <p>一八六四年(元治一) 長州征伐</p> <p>一八六七年(慶応三) 大政奉還</p> <p>一八六八年(明治一) 明治維新</p> <p>一八六九年(明治一) 版籍奉還</p> <p>一八七一年(明治四) 廢藩置県</p> <p>一八七三年(明治六) 徴兵令公布</p> <p>一八七七年(明治一〇) 地租改正開始</p> <p>一八七七年(明治一〇) 西南戦争</p> <p>一八八一年(明治一四) 万国郵便連合加入</p> <p>一八八一年(明治一四) 国会開設の詔</p>
江戸時代	<p>一七〇二年(元禄二五)</p> <p>一七〇七年(宝永四)</p> <p>一七二二年(享保六)</p> <p>一七四四年(延享一)</p> <p>一七五二年(宝暦一)</p> <p>一七七一年(明和八)</p> <p>一七九五年(寛政七)</p> <p>一八〇〇年(享和一)</p> <p>一八〇四年(文化一)</p> <p>一八一一年(文化八)</p> <p>一八三三年(天保四)</p> <p>一八三四年(天保五)</p> <p>一八四三年(天保一四)</p> <p>一八五四年(安政一)</p> <p>一八五九年(安政六)</p> <p>一八六三年(文久三)</p>	<p>一八六四年(元治一)</p> <p>一八六八年(明治一)</p> <p>一八六九年(明治一)</p> <p>一八七〇年(明治二)</p> <p>一八七一年(明治四)</p> <p>一八七二年(明治五)</p> <p>一八七六年(明治九)</p> <p>一八七八年(明治一一)</p> <p>一八八〇年(明治一三)</p> <p>一八八一年(明治一四)</p> <p>一八八七年(明治二〇)</p>	<p>一八六四年(元治一) 長州征伐</p> <p>一八六七年(慶応三) 大政奉還</p> <p>一八六八年(明治一) 明治維新</p> <p>一八六九年(明治一) 版籍奉還</p> <p>一八七一年(明治四) 廢藩置県</p> <p>一八七三年(明治六) 徴兵令公布</p> <p>一八七七年(明治一〇) 地租改正開始</p> <p>一八七七年(明治一〇) 西南戦争</p> <p>一八八一年(明治一四) 万国郵便連合加入</p> <p>一八八一年(明治一四) 国会開設の詔</p>
明治時代	<p>一八六九年(明治一)</p> <p>一八七〇年(明治二)</p> <p>一八七一年(明治四)</p> <p>一八七二年(明治五)</p> <p>一八七六年(明治九)</p> <p>一八七八年(明治一一)</p> <p>一八八〇年(明治一三)</p> <p>一八八一年(明治一四)</p> <p>一八八七年(明治二〇)</p>	<p>このころ豊臣秀吉の兵農分離政策によって宇智郡の武士が掃き除かれる</p> <p><b>浄土院の一石五輪塔に銘文あり</b></p> <p>郡山藩小堀新介、宇智郡の検地を行う</p> <p>水野石見守長勝、南阿田村一八〇石を支配</p> <p>松倉豊後守重政、二見城に二万石余の大名として入る(佐名伝四二六・二二石)</p> <p>松倉豊後守重政、肥前日野江城へ国替え(佐名伝は天領になる)</p> <p>郡山藩主松平下総守忠明の領地となる(佐名伝五三二・六五石)</p> <p>” 本多内記政勝の領地となる(佐名伝四二六・二二石)</p> <p>三年続きの飢饉で多数の死者が出る</p> <p>佐名伝は幕府の天領となる(佐名伝五三二・六五石)</p> <p>中村家文書(新任宮前寺の一向宗浄迎院道場の再興を願い出る文書)</p> <p>佛眼寺の旧本堂が建立される</p> <p>浄迎寺の本尊木仏下付書に記録あり(宮前寺下宇知郡左名手村惣道場浄迎寺)</p> <p>元禄郷帳で佐名伝五三二・六五〇石の記録あり</p> <p>大地震</p> <p>大日堂縁起札に「大日堂再建立願主称号山浄迎院」の記録あり</p> <p>小山家文書(年貢割付免除の文書)</p> <p>佐名伝村が東西に分離される(藤堂和泉領)</p> <p>おかげ参りが紀州方面より波及</p> <p>五條代官所が設置される。代官河尻甚五郎が支配、五万三千石</p> <p>享和郷帳で東佐名伝四〇五・一四石、西佐名伝一七七・五一四石の記録あり</p> <p>東佐名伝・西佐名伝の申し合わせ文書(水利問題の使用取締り文書)</p> <p>御霊神社石灯籠に記録あり</p> <p>太神宮灯ろう(灯ともし)ができる</p> <p>天保郷帳で佐名伝五三二・六五四石の記録あり</p> <p>御霊神社石灯籠に記録あり</p> <p>西村家文書(水利権問題の文書)</p> <p>コレラが流行</p> <p>天誅組の変</p> <p>五條代官鈴木源内が天誅組浪士により殺害される</p> <p>高取城主植村駿河守が支配</p> <p>代官中村勘兵衛が支配</p> <p>奈良県を設置、春日仲襄が初代県知事</p> <p>(東佐名伝四〇五・一四石、西佐名伝二二七・五一四石の記録あり)</p> <p>奈良府と改め、府知事左近衛権少将園地公静が来任</p> <p>奈良県となる(天領旗本知行地・寺社領のみ)</p> <p>五條県が発足、宇智・吉野両郡と河内の石川・錦部両郡</p> <p>奈良県となる(奈良全域)</p> <p>大区・小区制を実施</p> <p>堺県に合併(堺県第五大区一小区となる)</p> <p>堺県が五條郡役所を設置</p> <p>宇智、吉野郡役所を設置</p> <p>堺県大阪府に合併</p> <p>奈良県の独立</p>	<p>一七八一年(天正一〇) 本能寺の変</p> <p>一五九〇年(天正一八) 豊臣秀吉の統一</p> <p>一五九一年(文禄一) 文禄の役</p> <p>一五九七年(慶長二) 慶長の役</p> <p>一六〇〇年(慶長五) 関ヶ原の戦い</p> <p>一六〇三年(慶長八) 徳川家康、江戸幕府を開く</p> <p>一六一五年(元和二) 大阪の陣</p> <p>一六三五年(寛永二二) 参勤交代制の確立</p> <p>一六三七年(寛永二四) 島原の乱</p> <p>一六五一年(慶安四) 由比正雪の乱</p>

時代	年代	佐名伝付近の出来事	日本の出来事
明治	一八八八年(明治二二) 一八九二年(明治二四) 一八九五年(明治二八) 一九〇〇年(明治三三) 一九〇一年(明治三四) 一九〇五年(明治三八) 一九〇六年(明治二九) 一九〇八年(明治四二) 一九〇九年(明治四二) 一九〇九年(明治四四)	市制及び町村制の発布 阿太村が十三の大字でできる(佐名伝、東阿田、西阿田、山田、原、大野新田、八田、南阿田、滝、島野、湯谷、市塚、車谷) コレラが発生、死者が出る 奥徳平が生まれ故郷の薬水地区で二〇世紀梨の梨園の経営を始める(薬水園) 浄迎寺の本堂が建立される このころから佐名伝でも奥徳平にならって二〇世紀梨の栽培がはじまる 「西の宮さん」が「東の宮さん」に合併される 大阿太村農会が設立される 天理教大阿太分教会が設立される 吉野軽便鐵道が開通	一八八九年(明治二二) 大日本帝国憲法 東海道線開通 一八九〇年(明治三三) 第一回総選挙
大正	一九一二年(大正一) 一九一二年(大正二〇) 一九二六年(大正一五)	吉野軽便鐵道線路用地の工事設計に於ける紛議 佐名伝信用組合が設立される 大淀町ができる 郡役所を廃止	一九一四年(大正三) 第一次世界大戦 一九一八年(大正七) シベリア出兵 米騒動全国に波及
昭和	一九三七年、一九四五年(昭和二二、二〇) 一九四四年(昭和一九) 一九四七年(昭和二二) 一九五五年(昭和二七) 一九五九年(昭和三四) 一九六七年(昭和四二) 一九七四年(昭和四九) 一九七九年(昭和五四) 一九八〇年(昭和五五) 一九八一年(昭和五七)	第二次世界大戦で佐名伝区内で二七名の戦没者あり 大阿太村農業会が設立される 大阿太村農協が設立される 大阿太村佐名伝、大淀町へ分村合併する 伊勢湾台風 東阿田地区より一部が佐名伝に編入する 佐名伝農協、大淀町西部農協に合併する 佐名伝テレビ ミニサテ完成 国道ハイパス開通 梁瀬橋開通 大淀町合併二〇周年記念行事が行われる(子ども神輿を購入)	一九三三年(大正二二) 関東大震災 一九三七年(昭和一二) 日中戦争 一九四二年(昭和一六) 太平洋戦争 一九四五年(昭和二〇) ポツダム宣言受諾 一九四六年(昭和二二) 日本国憲法公布 一九五一年(昭和二六) サンフランシスコ講和条約 一九五六年(昭和三一) 国際連合加盟 一九六〇年(昭和三五) 日米安全保障条約 一九六四年(昭和三九) 東京オリンピック 一九七〇年(昭和四五) 大阪万国博開催 一九七二年(昭和四七) 沖縄本土返還 一九七五年(昭和五〇) 沖縄で海洋博開催 一九七八年(昭和五三) 日中平和友好条約 一九八五年(昭和六〇) 筑波で科学万博開催
平成	一九九一年(平成二) 一九九五年(平成七) 二〇〇一年(平成一三) 二〇〇二年(平成一四)	佐名伝自治会が設立される 佐名伝公民館ができる 佛眼寺が再建立される 共有地の名義変更(共有地所有権移転登記が完了する) 御霊神社の絵馬堂が改築される 大淀町合併五〇周年記念行事が行われる	一九八七年(昭和六二) 国鉄分割・民営化 一九九〇年(平成一) 大阪で国際花と緑の博覧会開催 一九九三年(平成五) 東京サミット 一九九五年(平成七) 阪神・淡路大震災 二〇〇〇年(平成一二) 九州沖縄サミット